平成 26 年度　活動報告

ＮＰＯ法人マリンネットワーク
理事長　古屋温美

■NPO 法人マリンネットワーク　平成 26 年度　総会・講演会・交流会

日時：平成 26 年 5 月 23 日（金）13：00～17：00
会場：札幌きょうさいサロン８階「高砂」

【プログラム】
〇基調講演　15：00～15：45　　「地域活性化のさまざまな形」　講師：臼井 純子氏

商品開発・マーケティングにおいては、販売するものはモノそのものだけでなく、地域が創る無形資産を一緒に売っていることを、高知県馬路村と北海道遠別町の事例を通して紹介いただいた。

販売・流通、サプライチェーンマネージメントでは、実店舗での販売と直販やインターネット販売など直接的搬送の組み合わせが重要であり、地域活性化とは、精神論だけではなく、経済効果をもたらす施策と経営能力を持つ人材が地域には必要であることなどをお話しいただいた。

そのような人材育成を実践している事例として、臼井さんが講師として参画されている「土佐まるごとビジネスアカデミー（MBA）」（高知県主催）では、地域のビジネスは家業から企業へ、事業化から産業化へと向かう必要があるため、受講生は経営知識と実践力を習得し、着実な成果を上げていることが紹介された。

最後に、地域のビジネスは基本を忠実に実行しながら、少なくとも成功までに 10 年以上の努力の積み上げが必要であることがまとめとして述べられた。

〇トークセッション　15：45～16：45　　「女性の視点から見た水産の魅力と地域の活性化」

NPO 法人マリンネットワークの遠藤仁彦理事（国土交通省港湾局技術企画課技術監理室長）がコーディネーターを務め、基調講演講師の臼井 純子氏、折谷 久美子氏（NPO 法人マリンネットワーク理事、NPO 法人スプリングボード・ユニティ２１理事長）、古屋(NPO 法人マリンネットワーク理事長）がパネリストを務め、「女性の視点から見た水産の魅力と地域の活性化」についてディスカッションを行った。

〇NPO 法人マリンネットワークの活動報告　16：45～17：00

古屋理事長が、平成 25 年度の活動報告をしました。

〇<u>交流会</u>：16：00～17：30　きょうさいサロン

会員、一般の方々あわせ、約 25 名の出席を頂きました。

■漁村地域とそれ以外との交流促進事業

⑴ 南かやべ前浜産養殖真コンブ　小分けオーナーの実施

「南かやべ前浜産養殖真コンブ」とそのオーナー制について

平成25年度に引き続き，NPO法人マリンネットワークにおける地域の魅力的な水産物を多くの方に知って頂く活動の一環として、当NPO法人が養殖コンブオーナーとなり、一般家庭が購入しやすいように小分けして販売することとしました。これによって、もっと気軽にオーナー制のコンブを試していただき、南かやべ地区の養殖コンブの魅力をより幅広い方々に知って頂ければと考えています。

- 早煮コンブ１３袋（１５０g／袋）
- ダシコンブ３０袋（２００g／袋）

限定で、１袋各１，０００円（消費税および送料込）で販売。早煮コンブは５月中旬、ダシコンブは１０月下旬にお送りしました。平成27年度も継続していけるような取組にしていきたいと思います。

（２） 根室の歯舞（はぼまい）地域のコンブ、落石（おちいし）地域のコンブの販売

南かやべの「白口浜真コンブ」とは違う「ながコンブ」という種類のだし用と早煮コンブです。

歯舞早煮コンブ（８０ｇ／袋）６００円，歯舞だしコンブ（８０ｇ／袋）　５００円，歯舞細切りコンブ（１００ｇ／袋）　６００円，霧娘（きりっこ）コンブ（２００ｇ／袋）　１，０００円（いずれも消費税および送料込）

■持続可能な漁村地域づくりに関する事業

フィシュラン北海道　のプラットフォームを作成しました。引き続き，今後も作業をつづけます。

■漁村地域の担い手支援に係る事業

(1)第6回マリンナレッジサークル(漁村勉強会)

日時：2014年8月8日（金）13：30～16：30
場所：一般社団法人寒地港湾技術研究センター会議室（札幌市北区北11条西2丁目2番17号　セントラル札幌北ビル5階)

積丹半島地域の現状や課題、水産を核とした地域振興の取り組み等（マリンビジョンなど）について積丹半島地域の古平町、積丹町、神恵内村から講師をお招きして、下記の通り開催しました。講師含め17名の参加をいただきました。

1. 古平町、積丹町、神恵内村から「地域の現状や課題、水産を核とした地域振興の取り組みなど（マリンビジョンなど）」のご紹介
   ○「古平町水産業の現状と課題」　古平町産業課水産係　係長　田名辺信行　様
   ○「積丹町の水産業と地域の現状と課題」　積丹町農水産課　課長　西川　源　様
   ○「神恵内村の取り組み　神恵内村藻場∞LANDプロジェクトの成果と課題」　神恵内村産業建設課水産農林係　係長　板倉宏至　様

2. 意見交換「積丹半島地域の業と地域振興の課題と今後について考える」
   コーディネーター　遠藤仁彦理事

【内容報告】
意見交換では講師の方への質問を含め、約2時間にわたり参加者全員で熱心な討議を行いました。
○ 古平町：地域の人口・産業の概況、水産業の概況、タラコ加工を主体とした水産加工業協同組合の経営破たんに関する内容と地域の雇用や経済的影響、都市漁村交流の状況などについて報告いただいた。
○ 積丹町：地域の人口・産業の概況、水産業の概況、漁業振興の取り組み（企業との連携「JTの森積丹」、「余別・海HUGくみたい」）の紹介、漁業振興上の課題や権後の漁業振興対策などについてご報告いただいた。
○ 神恵内村：磯焼けの状況、神恵内村藻場∞LANDプロジェクト事業の内容、ウニ食害防止フェンスの設置とその効果、藻場LAND造成とその効果などについてご報告いただいた。

(2)第7回マリンナレッジサークル（「みなと講演会(紋別)」のフォローアップ）の開催報告

日　時：2015年2月7日（土）14:00～15:00
場　所：海洋交流館会議室（紋別市）

「みなと講演会（紋別）」のフォローアップとして、みなとオアシス「もんべつ」の中核施設である海中展望塔オホーツクタワーやガリンコ号の発着ターミナルである海洋交流館を運営しているオホーツク・ガリンコタワー（株）の職員の方々や紋別市で観光振興を担当している方々と、今後のオアシスの魅力向上について意見交換しました。
（注）通常のマリンナレッジサークルはNPO会員に参加を公募して開催しますが、今回は「みなと講演会（紋別）」のフォローアップとして紋別の関係者限定で開催しました。

○参加者：
・オホーツク・ガリンコタワー（株）（加藤公之常務、川代悦矢総務部長、村井克詞研究員）
・紋別市観光交流推進室（今泉貴裕副参事、片倉靖次主事）
・みなとオアシス「もんべつ」運営協議会（竹内珠己代表）
・北海道開発局紋別港湾事務所（中村篤所長）
・NPO法人マリンネットワーク（遠藤仁彦理事）

○内容報告
2014年10月実施の「みなと講演会（紋別）」のパネルディスカッションでは、オホーツクタワーの魅力向上の方向性としては“本物”を体験してもらうこと等の話がありました。あらためて、将来を担う方々から見た現状の課題や今後の可能性について懇談したところ、次のような意見がありました。
【オホーツクタワー・海洋交流館等のさらなる可能性】
・ オホーツクタワーを竜宮城のようにしたい。そのためにタワーにもっと魚が集まる仕組みを考えていきたい。
・ ホタテに目があることを知らない人が大半。オホーツクタワーに学習機能を持たせて、“本物”を体験してもらうような教育の場としても活用していきたい。
・ ネットを活用して、北海道外に対してもタワーが教育の場として貢献できる方法も考えられるのではないか。
・ 道立流氷科学館とタワーがさらに連携を強めることによって、魅力を高めることができるのではないか。
・ タワーでオホーツク海の豊かさを体験してもらい、そこで海の幸の美味しさの理由をタワーならではの科学的なアプローチで伝えられると面白い。
・ 海外からのお客様に対しては多言語パンフレットを準備しているが、地域ぐるみのホスタピリティで対応（紋別に住んでいる外国人との連携など）すると、海外旅行客の口コミ評価が高まるかもしれない。
・ 夏場のガリンコ号の活用策として、ホタテ操業見学とか定置網の水揚げ見学に活用し、水揚げした水産物を観光客に食べてもらうような工夫をすると面白いかもしれない。
・ 海洋交流館のインフォメーションセンター機能をより分かりやすく、よりエリアの魅力が伝わる工夫をしていくことが重要である。
・ 予算など制約条件がある中で、まずはできることを実行していくことが重要である。

■情報収集及び調査研究

(1) 浜の活力再生プラン（苫小牧）アドバイザー　　契約金額：162,000 円（税込）

(2)マリンビジョン期成会報告書　契約金額：180,000 円(税込)

■その他

(1)みなと講演会（紋別）

日時：平成２６年１０月２５日（土）１６：００～１８：３５
場所：紋別市ホテルオホーツクパレス
主催：みなとオアシス「もんべつ」運営協議会・NPO 法人マリンネットワーク、寒地港湾技術研究センター
参加者：約２５０名

○特別講演　武部 新　衆議院議員「オホーツクから北海道を新に！」
講演内容
・ それぞれの地域にはそれぞれの自然に合った生活がある。
・ みなとを中心としたまちづくりは、新たな段階に入っており、みなとオアシスはそのひとつである。海の近くに住んでいる我々は重要なことである。
・ 増田レポート（増田寛也（元総務相・岩手県知事）が日本創世会議・人口減少問題検討分科会の議長となってとりまとめた報告）によると日本の人口減少対策は待ったなしの状況であり、定住化を進めていかなければならない。雇用をさせる産業の推進、住む環境（病院、教育）を整え若い世代が安心して暮らせる社会が必要。
・ 交流人口を増やす方法として、外国人の受入体制を考える。レンタカーや自転車で回る台湾外国人が増加している。交通標識を多言語化していく必要。
・ 台湾では「北海道」というブランド力があり、それを効果的に使うことが重要。
・ サハリンは北海道に魅力を感じており、紋別を特別区にしてロシア観光客を受け入れるなど、地元から大きな提案をしたらよい。
・ 紋別のように港湾も空港もあるまちは少ない。地方都市のグローバル化が重要。オホーツク海にはメタンハイドレードがあると言われており、エネルギー供給基地となる可能性がある。
・ まちを元気にするためには人材が最も重要であり、リーダーを育成していかなければならない。

○講演　高田 昌行産業港湾課長「みなとまちの賑わい」
講演内容
・「ないものねだり」から「あるもの探し」へというメッセージを盛り込みながら、海からアプローチした紋別港のポテンシャルについて触れつつ、全国のみなとオアシスの事例紹介、クルーズ 100 万人時代に向けたクルーズに関する紹介等が行われた。

○パネルディスカッション
【パネリスト】・加藤公之　氏（オホーツク・ガリンコタワー（株）常務取締役）
・竹内珠己　氏（みなとオアシス「もんべつ」運営協議会代表）
・出塚容啓　氏（一般社団法人紋別観光協会会長）
・宮川良一　氏（紋別市長）
・渡辺玲子　氏（紋別漁業協同組合女性部長）

【アドバイザー】　中島靖 氏（国土交通省北海道開発局港湾空港部港湾計画課長）
【コーディネーター】　遠藤仁彦　氏（NPO 法人マリンネットワーク理事）

内容

・ 紋別市長等のみなとオアシス「もんべつ」の関係者がパネラーとなり、高田課長の講演をヒントに、「紋別港を活用した地域活性化を考える」というテーマで意見交換。
・ パネラーからは来年の宮古開催の sea 級グルメに紋別から参加する旨の宣言が出されると共に、意見交換の中で、クルーズの誘致、北海道みなとオアシスマルシェ（仮称）等を取り組んでいくことが確認された。

⑵ 原稿執筆

「持続可能な漁業地域にむけて～豊かな地域づくりのためのコーディネートと人づくり」
ＮＰＯ法人マリンネットワーク　理事長　古屋温美
（ほくとう総研　機関紙　ＮＥＴＴ　第 87 号　ｐ10～13）